

日本における肝内胆管がんと肝外胆管がんの罹患率と死亡率の長期トレンド

歌田真依¹、大野ゆう子¹、玉木朋子¹、祖父江友孝²、圓藤吟史³

¹ 大阪大学大学院医学系研究科数理保健学、² 大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学、³ 大阪市立大学大学院医学研究科産業医学

【背景】印刷会社における胆管がんの多発が報告され、関心が高まっている。本研究では、日本における胆管がんの長期トレンドを検討した。

【方法】がん罹患は1985–2007年の4つの地域がん登録、がん死亡は1985–2011年の人口動態統計を用いた。年齢調整率はJoinpoint回帰モデルを用いて解析した。

【結果】全年齢の肝内胆管がんの罹患率は、男性では観察期間中増加し、女性では1996–1998年まで増加し、それ以降は一定であった。肝外胆管がんの罹患率は、男性では一定で、女性では1993–1995年から減少した。30–49歳の肝内胆管と肝外胆管の罹患率は、一定または減少した。男女共に肝内胆管がんの死亡率は1996年から増加し、肝外胆管の死亡率は1992年から減少した。30–49歳の肝内胆管の死亡率は一定で、肝外胆管の死亡率は減少した。

【結論】肝内胆管がんの罹患率と死亡率は、観察期間中一定か増加していた。一方、肝外胆管がんの罹患率は一定か減少で、死亡率は1992年から減少していた。30–49歳では、肝内胆管と肝外胆管の罹患率と死亡率は一定か減少していた。

キーワード：肝内胆管がん、肝外胆管がん、罹患、死亡